都道府県名	宮城県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	宮城県名取市立那智が丘小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	２	２	２	２	１	１３	２１
児童数	５３	６２	６４	５７	７７	６０	１	３７４	

Ⅱ　研究の概要

１　研究主題

確かな学力を身に付ける子供の育成
～基礎・基本を定着させる個に応じた国語・算数の学習指導の工夫を通して～

２　研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・全学年　　国語（物語文），算数
　14 年度は全学年で国語（物語文・説明文）を中心として国語と算数の授業実践を行った。今年度もこの実践の成果を生かし，研究を深めるため上記の学年と教科で実施する。

・５年，６年　　理科，音楽，家庭，体育の一部教科担任制で実施
　14 年度も教師の得意分野を生かすために実施したが，今年度も継続して実施し，研究を深める。

(2)　年次ごとの計画

平成14年度

○　**テーマ**　　確かな学力を身に付ける子供の育成
～基礎・基本を定着させる個に応じた学習指導の工夫を通して～

○　**研究の見通し**
　４つの視点に基づいた授業実践を行い，基礎・基本を確実に身に付けさせる授業の在り方を探る。

○　**研究の内容・方法**

1)　４つの視点と関わらせた国語科と算数科の授業実践

(1) ４つの視点について

＜視点１＞評価規準を明確にした指導と評価
　学習指導要領の目標・内容が「基礎・基本」であることを踏まえて，学習指導要領に準拠した単元の評価規準を設定する。また，各時間の具体の評価規準を設け，何を学ばせどう評価するかをはっきりさせる。

＜視点２＞学力を育む単元構成の工夫
　全員が共通に身に付ける「基礎・基本」を定着させる「学ぶ」学習と発展的，補充的な学習によって個別的な力を付けさせる「生かす」学習を取り入れる。また，子供一人一人が自分のものの見方や考え方をもって判断する力を付けさせるために，問題解決的な学習を取り入れる。

＜視点３＞実態に応じたきめ細かな指導
　一人一人に「基礎・基本」を身に付けるために，子供の実態に応じて理解度や習熟の程度に応じた指導，繰り返し指導，個に応じた指導のための教材開発を行う。

＜視点４＞指導体制の工夫

平成14年度	視点１から視点３までの指導を効果的に行うため，一斉指導や少人数指導，教科担任制の指導体制を工夫する。 (2)国語科の授業実践・・・全校授業研究会７回実施（各学年１回～２回） 子供の学力向上のためには，教師の授業力向上，授業の質の向上が大切と考え，すべての教科の土台ともなる国語科の授業実践から研究を始めた。 国語の授業では，理解の程度に応じた指導をするために，読み取る学習まではＴＴ指導で，課題やグループごとに活動する学習では少人数指導を行った。これらの形態での授業は３，４，６学年で各１単元，５学年で２単元行った。 (3)算数科の授業実践・・・全校授業研究会２回実施（４，５学年各１回） 課題について考えをもち，意味を理解する学習ではＴＴ指導を行い，考えの練り合いができるようにした。その後，習熟度別の少人数指導で学習内容を定着させた。算数科の場合は一つの単元の中でＴＴ指導と少人数指導の流れを繰り返し，発展学習につなげた。算数科でのこれらの授業は３，４，５，６学年のほとんどの単元で実施した。 **2)　部分教科担任制を取り入れた授業実践** 教師の専門性を生かした授業の在り方を探るために，部分教科担任制を試みた。４，５，６学年で担任教師が授業を交換する形で実施したり，教頭が３，４，５，６学年で書写を各学年６時間，教務主任が５学年で理科２単元を各クラス２０時間，６学年で１単元を各クラス１０時間担当した。 **3)　１５分学習の実施** 視点３の繰り返し指導と個に応じた教材開発の一つとして，計算力と漢字力の向上，読書の幅を広げていくことをねらいとして実施した。１５分学習の指導計画は，国語科と算数科の年間指導計画との関連を図りながら作成し，適時に効率よく習熟できるようにした。水曜日は読書，木曜日は計算，金曜日は漢字を朝の会のあとの１５分間行った。１５分学習は年間１０５回３５単位時間実施した。 **4)　学力テストの実施と分析，教育相談の実施** ９月に子供の学びの実態を把握するために，国語科と算数科の学力テストを実施した。習熟の足りない点は１５分学習で補充したり，単元の展開の中で理解を確実にすべく工夫したりした。また，保護者全員が参加した教育相談では，学力テストの結果や子供の学びの状況，学校の取り組みなどを説明した。

平成15年度	○　**テーマ**　　確かな学力を身に付ける子供の育成 ～基礎・基本を定着させる個に応じた国語・算数の学習指導の工夫を通して～ ○　**研究の見通し** ４つの視点に基づいた授業実践を行い，基礎・基本を確実に身に付けさせる個に応じた学習指導を工夫する。 ○　**研究の内容・方法** 1)　４つの視点と関わらせた国語科と算数科の授業実践 2)　部分教科担任制を取り入れた授業実践 3)　１５分学習の実施 4)　学力テストの実施と分析，教育相談の実施 ＊　昨年度の中間報告書の内容と同じ。

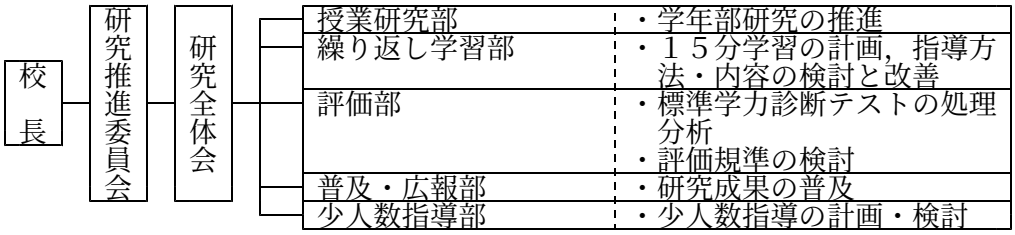
平	○　**テーマ**　　確かな学力を身に付ける子供の育成 ～基礎・基本を定着させる 個に応じた国語・算数の学習指導の工夫を通して～ ○　**研究の見通し**

成16年度	４つの視点に基づいた授業実践を行い，基礎・基本を確実に身に付けさせる個に応じた学習指導を工夫する。 **○　研究の内容・方法** 1)　４つの視点と関わらせた国語科と算数科の授業実践 2)　部分教科担任制を取り入れた授業実践 3)　１５分学習の実施 4)　学力テストの実施と分析，教育相談の実施

(3)　研究推進体制

研究推進委員会で全体的な研究計画の立案，調整をする。また，授業研究部，繰り返し学習部，評価部，普及・広報部，少人数指導部の５部を設け研究推進に当たる。研究全体会では，研究主題に迫るための全体討議や授業研究会，各部からの報告，提案，討議を行う。

＜実践研究組織図＞



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１　研究の成果と課題

１　＜視点１＞評価規準を明確にした指導と評価

(1)　指導事項と評価の明確化

単元の評価規準を設定し単元の指導計画を立てるに当たって，「基礎・基本である学習指導要領の目標・内容と単元で扱う教材について研究した。これによって，身に付けさせるべき基礎・基本を明らかにすることができた。

次に，学習活動の流れの中で具体の評価規準を考えることを通して，単位時間の中のいつ（指導と評価の時期）どこで（指導と評価の場）何を（指導事項）どのように（評価の方法）指導し，評価するかが明確になった。

しかし，具体の評価規準がねらいに合ったもので，発問，板書，学習活動が適切であることが評価の前提になる。その検討が今後も課題である。

(2)　複数の具体の評価規準で学習の様子を多面的に評価

具体の評価規準を設けるねらいは，一時間の指導の中で全員に達成させたい姿を明らかにして指導することと考えた。従って，単元の評価規準は各観点ごとに設けられ，その下には時間ごとの具体の評価規準がある。各観点それぞれに複数の具体の評価規準が設けられ，評価の場や方法も複数に考えられているため，学習の様子を多面的に評価することができた。

この際，具体の評価規準それぞれにすべてＡ・Ｂ・Ｃの基準を設け，すべての項目をＡ・Ｂ　・Ｃで評価することをねらうのではなく，その姿まで全員が達成することをねらった。

観点それぞれに設けられた複数の具体の評価規準と他の評価を組み合わせて総合的に評価できるように今後も工夫しなければならない。

(3)　評価を生かした実態に応じたきめ細かな指導

その時間の評価規準に沿った指導を振り返り,評価がうまくできなかった，Ｃの評価が多い，というときは，指導すべきことを十分指導できなかったとも考えられる。この反省を基にしてその後の指導を修正できた。

子供の姿を見取るには，学習ノートが大きな役割を果たす。国語では「関心・意欲・態度」「読む」「書く」の観点を，算数では「関心・意欲・態度」「考え方」「表現・処理」「知識・理解」の観点を，児童が学習ノートに書いたことから評価し，実態に応じたきめ細かな指導に生かすことができた。

今後も指導に生かす評価のための学習ノートの工夫が課題である。

２　＜視点２＞単元構成の工夫

(1)　学習の意欲を向上させる問題解決的な学習

国語では，児童の初発の感想を生かしながら，指導のねらいに合った学習課題を設定した。算数では，学習のねらいに合った問題や課題を設けた。

学習課題や学習問題を一時間ごとに設定することで，児童は事前に自分の考えをもって授業に臨んだり既習事項を生かして自力解決しようとしたりするようになった。また，授業の後で自分の考えが深まったことを確認したり（自己評価），友達の考えや自分の考えの良さを知ったりする（相互評価）ことで，学習に満足感を感じ意欲を向上させた。このような問題解決的な指導の流れに沿って，考えを書いたり感想をまとめたりすることができるように，学習ノートを工夫することに力を入れた。

課題や問題を設ける際には，それが指導のねらいに沿ったものであるかを検討することを大切にした。検討することで教材研究が深まり，指導過程や指導方法，指導内容が改善され授業の質が向上した。

今後も子供の学習意欲を喚起しながら，ねらいに沿った学習課題作りをどう進めるかを検討・工夫したい。

(2)　「学ぶ」学習で身に付けた基礎・基本を，個に応じた「生かす」学習へ

国語では，読み取る学習までを「学ぶ」学習とし，その後読み取ったことを生かして学習する活動を「生かす」学習とした。算数では，評価規準に表された全員に身に付けさせたい基礎・基本を「学ぶ」学習とし，補充的・発展的学習を理解や習熟に応じて行う学習を「生かす」学習とした。「学ぶ」学習において，具体の評価規準に則ったきめ細かな指導で確実に基礎・基本を身に付けさせることによって，「生かす」学習で学んだことを生かして発展的に学習したり，学習を補充したり習熟させたりすることができた。

「学ぶ」学習で基礎・基本を確実に身に付けさせるためには，授業内容そのものがねらいに沿っていて，発問，板書，学習活動が適切でなければならない。「学ぶ」学習を確実なものにするために，事前授業や模擬授業で指導の検討を行い効果を上げた。

今後は，「学ぶ」学習で身に付けた基礎・基本を「生かす」学習の充実に力を入れたい。

(3)　問題解決的な学習の流れに沿った学習ノートの充実

書く場とノート指導（国語）

初発の感想 → まとめの感想

場面の読み取り

課題ついての事前の考え → 読み取り後の考え

書く場				
子供の姿	・物語に興味をもつ。 ・読み取る学習に意欲をもつ。	・学習課題について事前に考えを書くことにより，本時の学習に主体的に取り組もうとする。	・表現を手掛かりに読み取ったことをまとめる。 ・事前に書いた考えと比較して読みの深まりを確かめ成就感を味わう。 ・次の場面の読み取りに意欲をもつ。	・読み取ったことをまとめる。 ・初発の感想と比較して読みの深まりを確かめ成就感を味わう。
教師のねらい	・物語の読解に対して子供が関心をもっていることを把握する。 ・学習課題に生かし，意欲を喚起させる。	・表現を手掛かりにして，事前にどの程度読み取っているか，学習課題に対してどんな考えをもっているか把握する。 ・子供の考えを学習に生かし，満足感を味わわせる。	・表現を手掛かりにして読みを深めることができたかを評価する。 ・子供に自分の読みの深まりを実感させる。 ・子供同士で考えを聞き合い相互評価させる。	・表現を手掛かりにして読みを深めることができたか評価する。 ・子供に自分の読みの深まりを実感させる。 ・子供同士で考えを聞き合い相互評価させる。

問題解決的な学習の流れに沿って，評価を指導に生かすと同時に学習意欲を高めるために学習ノートを工夫した。

国語では書かせる場とノート指導を上の図のように行った。

このように学習ノートを工夫して指導した結果，子供は次のように書く内容を充実させた。

（東書五下）「注文の多い料理店」（１２時間扱い）

国語学習ノート（場面の読み取り）6／12時
※一時間ごと見開きで使用

〈学習課題〉
二枚目と三枚目の戸の注文を見たときの紳士の気持ちを読み取ろう。

〈板書〉
ずんずん
←変
ロシア式
（注文の多い）
はやっている
顔をしかめた
←どういうんだ
こういうことだ
どうもうるさい
びっくり
また変

〈自分の考え〉
「注文はずいぶん多いでしょうがどうかいちいちこらえてください。」と一人のしんしは顔をしかめました。」とあるので、早く料理を食べたいのに、注文がそんなにあるなんて、少し腹が立ったと思います。

〈読み取った後の考え〉
一人目のしんしは、いつも「なんか変だな。」と思いながらも、二人目のしんしが「こういうことだ。」（当たっているかどうかはわからない。理由をつけている。）一人目のしんしも早く食べたいから、変だと思いながらも注文通りに進んでいって、だんだん気持ちをまぎらしていっぱいしんだから、しじゅうえらい人がきているんだと思って、変だなあ、と思いながらも、みんなにじまんできると思って、進んでいったんだと思います。

学習ノート（初発の感想）
ぼくは最初読んだとき、二人の若いしんしのかいわは、おもしろかった。でしたまったのに、犬、二ひきが戸をつきやぶって、二ひきの犬が最後にとびこんできたのを見てびっくりした。一人のしんしは顔をしかめて、とてもふしぎに思いました。なぜ、犬がきたのかなと思ってきたら、ネクタイ、カフスボタン、眼鏡、クリームをぬるのを防ぐためとかなのかなと思ったら、そのあとは、何かこの金物類、ことばがつたないふしぎに思わないのかなと言ってくれるのかなあと思いました。最後に二人の若いしんしが親分に食べられそうになったところがこわかったです。

学習ノート（まとめの感想）
この物語を読んで、しんし達と山ねこの立場が逆になっているような気がしました。ふつうねこが人間を食べるなんてあいいしねこがあるみたいに進んでいくし、ひっかかっているこ達の注文でしたが、人間はちっぽけな達を追いつめてしまうから、泣くまでしんぼうしたんだと思います。

ここのしんしは二人ともみえっぱりでかっこうつけで、じまんしたがりやなので最後にこわいめにあったんだと思います。お湯に入ればふつう顔は元にもどるけど、こういう性格なのでばちがあたって、元にもどらなかったので最後は終わりました。

この本を読めば読むほどこのしんしの性格が分かってきて、すごくおもしろかったです。しんしが下着だけでりょうしに向かっているところがいっぱいあって楽しかったです。

書く場とノート指導（算数）

書く場	学習課題	課題ついての考え	→	まとめ	学　習　感　想
子供の姿	・学習課題を知り学習の方向性をつかむ。 ・既習事項を生かして，主体的に学習課題を自力解決する。 ・書かれた自分の考えを発表したり，友達の考えを聞くことで，自己評価や相互評価をしながら考えの良さを感じる。 ・一人一人に支援しながら考えをもたせる。			・学習課題の答えを確かめ，成就感を味わう。 ・学習感想を書くことで学習を振り返り，学習したことの有用性や数的処理の良さを再確認する。	
教師のねらい	・既習事項を生かしてどのように考えているのかを評価して指導に生かす。 ・学習課題を自力解決できたという満足感をもたせる。			・学習課題の答えを確かめ，数学的な意味を理解させる。 ・学習したことの有用性や数的処理の良さをどのように実感しているかや，学んだこと生活に生かそうとしているかなどを評価し，今後の指導に生かす。	

算数では書かせる場とノート指導を次のように行った。

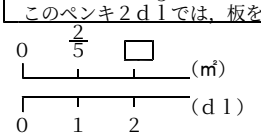
このように学習ノートを工夫して指導した結果，子供は次のように書く内容を充実させた。

（東書六上）「分数のかけ算とわり算」（１８時間扱い）

算数学習ノート　　1／18時

分数のかけ算とわり算を考えよう

１ｄｌで板を $\frac{2}{5}$ ㎡ぬれるペンキがあります。
このペンキ２ｄｌでは，板を何㎡ぬれますか。



＜式＞ $\frac{2}{5}\times 2$

（式の理由）

$\frac{2}{5}$ が二つ分ということは $\frac{2}{5}$ を２倍することと同じなので $\frac{2}{5}\times 2$ という式になるんだと思います。

$\frac{2}{5}\times 2$ の計算の仕方を考えよう。

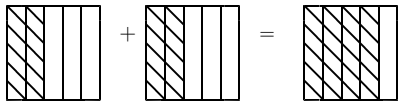
（自分の考え）

①小数で計算して考える。

$\frac{2}{5}=2\div 5=0.4$

$0.4\times 2=0.8$　　$0.8=\frac{8}{10}=\frac{4}{5}$

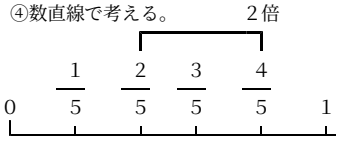
②面積図で考える。



③たし算で考える。

$\frac{2}{5}+\frac{2}{5}=\frac{4}{5}$

④数直線で考える。



（まとめ）

$\frac{○}{□}\times △=\frac{○\times △}{□}$

（学習感想）

私は，Ａさんの面積図を使って考える方法は見たときぱっと分かるのでいいと思いました。Ｔさんは単位分数を使って，それが何個分あるかと考えていたので分かりやすかったです。

分母に整数をかけないのは，分母は１を何個に分けたかを表しているので，そこに数字をかけてしまったら単位分数が変わってしまうので，単位分数が何個分かを表している数字の分子にかければいいということがよく分かりました。

３　＜視点３＞実態に応じたきめ細かな指導

(1)　指導過程の検討がきめ細かな指導の始まり

理解の程度に応じた指導は，何をどう理解させるか，つまり指導をどのようにするかに左右される。そこで，指導過程を検討することが，きめ細かな指導のスタートであると考え実践を続けた。指導過程の検討の過程は次の通りである。

ア　担任と少人数担当が原案を考える。
イ　学年部で原案を検討する。
ウ　イの指導過程で模擬授業をして検討する。
エ　ウの指導過程で事前授業をして検討する。
オ　エの指導過程で模擬授業をして検討する。

このような過程で検討した後，授業研究を行った。この結果，指導過程や発問，板書など実際的な指導方法が吟味されて何をどう理解させるかを検討することができ，理解に応じた指導の方向性をつかむことができた。

(2)　座席表を活用した評価の記録を生かしたきめ細かな指導

具体の評価規準に則って子供の学びの実態を把握し，評価したことを指導に生かすことがきめ細かな指導のためには大切であると考えた。そこで，座席表を活用して具体の評価規準に則って評価した子供の姿を記録した。この記録を蓄積することによって子供の成長の様子やつまずきを明確に把握し，指導に生かすことができた。

(3)　指導体制を工夫したきめ細かな指導

理解や習熟の程度に応じた指導のために，指導のねらいに応じて次のような指導体制をとった。少人数指導は，子供の実態をきちんと理解した上で指導することと，継続的に指導できるようにすることの二つを考慮し，一つのクラスを二つのグループに分け，低・中・高学年にそれぞれ１名配置されている少人数担当教師と担任が指導する方法で行った。

学習内容と子供の実態に応じてどの指導体制が有効であるかを考えて，上記の指導体制を組み合わせて指導したことにより，実態に応じてきめ細かく指導することができた。

指　導　体　制	指　導　の　実　際
ティーム・ティーチング（ＴＴ）	・一つのクラスの子供を，二人の教師が指導した。国語の読み取る学習と，算数の数学的な意味を理解させ考えをもたせる学習でＴＴの指導体制をとった。

	・クラスの中に著しく理解に時間がかかる子供がいる場合は，ＴＴの指導体制をとりＴ１が全体指導を行う一方でＴ２が著しく理解に時間がかかる子供の指導を重点的に行った。
理解の程度に応じた少人数指導	・理解の程度に差が出る内容の学習を，理解に応じて指導した。 ・理解に時間がかかるグループはスモールステップで確実に理解させた後，補充的な学習で理解を深めた。理解がはやいグループは自力解決のあと考えの深め合いができるようにし，その後発展的な学習で理解を深めた。
習熟の程度に応じた少人数指導	・学習内容を理解した後，表現・処理の能力に差が出ると思われる時，習熟の程度に応じて指導した。 ・習熟に時間がかかるグループは補充問題で習熟を確実にし，習熟がはやいグループは学んだことを生かして発展問題に取り組ませた。
課題に応じた少人数指導	・課題に応じて個に対応しながら指導した。 ・国語では「学ぶ」学習で読み取る学習をした後の「生かす」学習でこの指導体制をとった。
同質でクラスを二つに分けた少人数指導	・学習にあまり差が出ないと思われる時で，一人一人が発言する機会を多く取るなど，活躍の場をたくさん与えながら学習したい時この指導体制をとった。

(4)　繰り返し指導を工夫したきめ細かな指導

繰り返し指導として，単元の中での繰り返し指導と１５分学習での繰り返し指導を行った。

①　単元の中での繰り返し指導

単元の中での繰り返し指導は，その単元の指導の中で毎時間あるいは数時間繰り返して学習することで理解を深めることのできる活動を考えた。国語では短作文や音読などを，算数では学習感想や見当を付けて考えること，数直線図を手掛かりに考えることなどを取り上げ繰り返し指導した。繰り返し指導をねらいに応じて意図的に行うことで，学習効果は高まった。

②　１５分学習での繰り返し指導

１５分学習は朝の会の終了後の１５分間，全校一斉に実施した。水曜日は読書を，木曜日は計算を，金曜日は漢字を実施した。指導計画は教科の年間計画との関わりを考えて作成した。１５分学習を活用することによって，習熟の機会を増やすことや習熟の適時性を考えることができた。また，次に学習する単元のレディネスを確実にすることもできた。読書量に関しては，14 年度と 15 年度を比較すると３０％程度の増加があり，その後も横ばいを続けている。

4　＜視点４＞指導体制の工夫

指導体制は，視点１，視点２，視点３の指導を支えるものとして工夫した。これまでにも述べたように，次の３つの点で成果をあげた。

(1)　評価を生かした指導のための指導体制の工夫
(2)　問題解決的な学習・「学ぶ」学習「生かす」学習のある単元構成のための指導体制の工夫
(3)　実態に応じたきめ細かな指導のための指導体制の工夫

5　学力テストの結果から

学力テストは，学力のうちテストで測定できる部分の水準を確認するとともに，学習指導要領に示された内容・領域ごとに学習状況を分析し指導に生かす目的で実施した。その結果から，中領域別比較の結果と５段階分布比較の結果から学力が向上したと思われる点を示す。

(1)　中領域別比較

中領域別比較は，平成１４年度実施したもので通過率が全国比 105 以下であった中領域を，平成１５年度実施した結果と比較したものである。

国語の中領域別比較をみると，ほとんどの中領域の通過率が伸びている。算数の中領域比較をみても通過率の伸びが大きい中領域が多く，指導の効果が表れたといえる。

しかし，国語の中には通過率が上がらなかった中領域が１領域ある。また，１５年度の実施で新たに 105 以下だった領域もある。今年度はこれらの中領域の指導に力を入れたが，平成１６年度の結果と比較して指導方法を検討してい

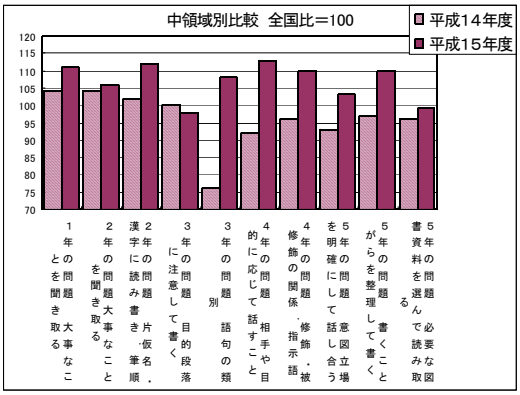
きたい。

(2)　５段階分布比較

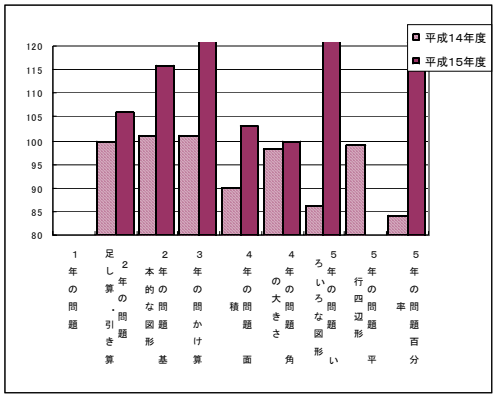
国語については１段階が減り５段階に増加が見られる。また，算数については２段階が減り３段階と４段階に増加が見られる。どちらの教科もわずかではあるが右方向に分布が移動したといえる。今後も一時間毎の具体の評価規準に則った指導と評価を工夫していくことで，確実な学力の向上を目指していきたい。

中　領　域　別　比　較

＜国語＞



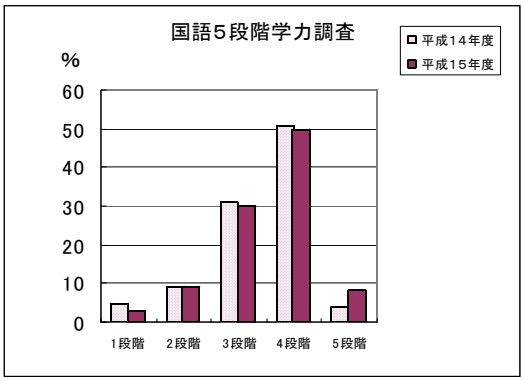
＜算数＞



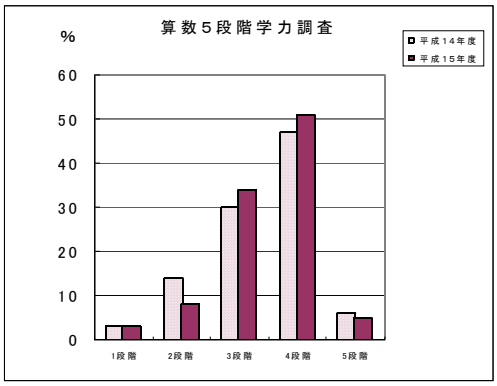
※「５年の問題　平行四辺形」については，１５年度に設問がなかった。

５　段　階　分　布　比　較

＜国語＞



＜算数＞



Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

(1)評価規準に則った子供の学びの姿の評価
　1)目的
　　・授業の中で子供がどのように力を伸ばしたか，一時間毎の具体の評価規準に則って評価し，学力の向上を確認する。
　2)内容
　　・指導のねらいに応じた評価規準に則った評価
　3)時期
　　・各指導時間と単元の指導の終わり

(2)学力テスト
　1)目的
　　・学力のうちペーパーテストで測定可能な部分の水準を確認するとともに，学習指導要領に示された内容領域によって分析し指導に生かす。
　2)内容
　　・数研式標準学力検査　全国標準　ＮＲＴ（Norm　Referenced　Test）
　　国語科・算数科
　3)時期
　　・平成１５年４月２２日

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1)授業公開
　①日時
　　平成１５年　７月３日（木）１３時２５分～１６時３０分
　　平成１５年１１月６日（木）１３時２５分～１６時３０分
　②場所
　　那智が丘小学校
　③対象
　　管内小・中・高・養護学校を中心に案内
　④目的
　　学力向上フロンティアスクールとしての本校の指導内容や指導方法，指導体制などについての実践を公開・協議し，その成果を普及するとともに今後の研究に生かす。
　⑤内容
　　少人数指導（Ｔ・Ｔ指導を含む）での国語科と算数科の授業を公開し，指導内容や指導方法，指導体制などについて協議する。

(2)ＨＰ作成・研究紀要・リーフレットの作成と配布

(3)管内の教育課程協議会での話題提供

(4)隣接する中学校の先生方への授業公開

(5)他県市町村からの研修視察の受け入れ
　　・沖縄県国頭村教育委員会
　　・多賀城市教務主任者会
　　・岩手県花巻市立花巻小学校

(6)フロンティアティーチャーとしての研究成果普及
　　・名取市研究主任者会での講話
　　・宮城県教育研修センターでの講話
　　・岩沼市立玉浦小学校での講話

(7)機関誌等での研究紹介
　　・宮城県国語科研究紀要
　　・東京書籍

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　■１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級
■１３～１８学級　□１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　■少人数指導　■ＴＴによる指導
■一部教科担任制　□その他

【研究教科】　■ 国語　□ 社会　■ 算数　■ 理科
□ 生活　■ 音楽　□図画工作　■ 家庭
■ 体育　□ その他
※理科，音楽，家庭，体育は４，５，６年が一部教科担任制で実施

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■有　□無